

## 育種賞、育種功労賞の受賞者 決まる

### ❖ 育種賞は原田員男さん

今年度の育種賞、育種功労賞の選考委員会  
が昨年12月23日に行われ、育種賞にぶど  
うの原田員男さん（山梨県笛吹市）、育種功  
労賞に南半球の原生植物の小林泰生さん（福  
岡県糟屋郡宇美町）と、水野昭南さん（静岡  
県島田市）の2名に授与することが決定しま  
した。

原田さんは、父親と育成したそれまでわが  
国になかった硬肉種無しぶどう品種2品種の  
良質な生産を実現するため、生産者の研究会  
（アウラ アウローラ アソシエーション）  
を設立してブランドの確立に努めたことが評  
価され、小林さんは開花までに長期間を要し、  
耐寒性が弱いテコマ（アメリカ南部から中南  
米原産の花木）等、6植物の特性を改良した  
品種を育成し、アメリカや韓国にも普及して  
いることが、水野さんは地域の茶農家のため  
に、導入から年月が経って品質が低下してい  
る「やぶきた」を上回る高アミノ酸品種5品種  
を、15年から25年かけて育成したことが  
評価されました。

授賞式は、2月13日の総会の場で行われ  
ます。

## 2月23日に定期総会を開催 竹下大学氏による講演も実施

第33回定期総会を2月13日、東京霞が  
関の法曹会館で14時30分より開催するこ  
とが決まりました。総会後に行う講演会の講  
師には、キリンビール社に花の育種部門を立  
ち上げ高収益事業に育て上げた竹下大学氏  
（現食品産業センター）にお願いしました。  
演題は、「育種にもっと光を」です。

## 金澤会長も出席し、許諾の 必要性等を訴える

### 植物新品種の保護に関する検討会

国内育成品種の海外流失問題の防止等を検  
討する「優良品種の持続的な利用を可能に  
する植物新品種の保護に関する検討会」が、  
昨年3月27日以来、6回にわたり開催され  
ました。これには、育成者代表の委員として  
金澤会長も出席し、生産者を明確にする許諾  
と権利侵害に実効性のある保護を行うことを  
要望しました。

11月15日の最終検討会では、国から登  
録品種の増殖は、育成者の許諾に基づくこと  
等の取りまとめ案が提案され、了承されまし  
た。（検討会の配布資料は、農林水産省ホー  
ムページに掲載）

### ◆新聞発刊に寄せて

かわら版「育種の波動」第1号が完成し、皆様  
にお届けする運びとなりました。  
全国新品種育成者の会は、昭和から令和への長  
きにわたり、品種開発に取り組む個人育種家の  
育成者権を守るため、農林水産省とも連携して  
品種登録制度の形成や普及に務めてまいりまし  
た。品種改良には、交配や選抜等の地道な努力  
が必要です。個人育種にあっては、思うように  
いかずに途中で悩むことも少なくありませんが、  
私たち育成者の会は、会員同士が各人の経験や  
情報を共有しあい、専門家の講演会や育種機関  
への視察研修等を通し、共に学びながら品種開  
発、育成者権の取得保護活用を図ってまいりま  
した。世の中が目まぐるしく変わる中、全国に  
点在する会員の皆様の育種への取り組みやご意  
見、品種登録制度に対する希望などを掲載した  
会のかわら版を発刊することにより、会員が頑  
張っている姿を知ることによって自身の励みと  
するなど、より一層の育種の推進と情報交流が  
できることを願い、新聞を発行することといた  
しました。

育種開発に関わっている関係機関や他の育種  
家の皆様にも、ぜひご覧いただき、会の取り組  
みや皆様の姿を通して育成者権の重要性を強調



してまいりたいと思っています。

全国新品種育成者の会会長 金澤美浩

## 育種視察研修会を静岡で開催

10月3日、4日の両日、育種視察研修会が静岡県で行われました。3日は、磐田市の県の農林技術研究所を訪ね、近年開発された野菜、花きの開発品種等の説明を受けた後、場内の施設を見学しました。4日は、静岡県の有限会社石井育種場を訪問し、社長からキャベツ、葉ボタン等の育種状況について説明を受け、キャベツの栽培圃場を見学しました。3日の夕食では、静岡県の地魚等を囲み、懇談のひと時を楽しみました。

## 金澤会長、「農耕と園芸」

### 「趣味の園芸」に掲載される

当会の会長、矢祭園芸の金澤美浩さんが、

「農耕と園芸」冬号と「趣味の園芸」12月号の2つの園芸雑誌に相次いで掲載されました。

「農耕と園芸」では、金澤会長が自身の圃場で、産地おこしのために進めているラズベリーの育種と生産を紹介しながら、食品産業センターの竹下大学氏と「育種の仕事と役割」について語っている

対談が、「趣味の園芸」12月号では、シクラメン栽培について、金澤さんが語るわかりやすい育て方が、それぞれ6ページにわたって掲載されています。



## ☞ 新たに事務局の担当になりました。

下野章司さんに代わり、今年度から事務局を担当することになりましたので、自己紹介させていただきます。

東京葛飾区に住む岩澤弘道と申します。生まれは、千葉県成田市です。高校卒業後、農林水産省の職員となり、平成3年から育成者の皆様から登録出願された食用作物、草花、鑑賞樹、工芸作物等の新品種を審査する審査官として、

約17年間勤務しました。

平成30年3月に農林水産省の勤務を終了した後、地道に新品種の創出に打ち込む育種家の皆さんを支援しようと、審査官時代の経験を活かし、自宅を事務所として新品種の登録・普及を支援する仕事を始め、育種家の皆さんに事務所開業のはがきを送付したところ、金澤会長の目に留まり、事務局をしてほしいと依頼されたのです。

今後は、会の窓口として、また会の活動の陰の推進役として、更に自分としても新品種の普及の仕事に就く者として、個人育種家の皆さんの新品種を生む出す苦勞が少しでも報われますよう、一生懸命働きますので、何卒よろしくお願いたします。

岩澤 弘道 岩澤新品種支援事務所代表

東京都葛飾区四つ木5-9-19

090-4059-1096 Fax 03-3691-2818

メール iwa.hinsyudebyu.512@gmail.com

## = 伝言板 =

▶新聞製作は、小学校のときに壁新聞を作った以来のことで、パソコンも不得手な中、何とか作り上げ、皆さんに届けることができました。皆さん、「かわら版 育種の波動第1号」は、いかがでしたでしょうか。感想を聞かせていただくと幸いです。▶会員の皆さんが全国に散在していて、なかなか会員同士が連携を取れない中、会員が一体感をもって品種育成の仕事に取り組む一助となることを願って、年に数回の新聞を発行することにしました。▶この新聞には、皆さんに知っていただく情報を伝えるだけでなく、それ以上に会員の皆さんの新品種の育成や普及に粘り強く取り組む体験やエピソードを紹介していこうと思っています。▶そうはいっても、取材記者もいない中で記事の収集や編集等を行うことになるので、皆さんからのご意見、品種育成に当たる中でのエピソード、写真等の提供を、事務局に遠慮なくお寄せください。ご協力をお願いします。▶新聞のタイトルは、「育種の波動」のほか、個人育種家が集う会なので「育種の絆」「育種の架け橋」等の名も考えましたが、この新聞の記事が会員の皆さんに共感や感動を与え、今後の育種に取り組む励みや刺激になればと思い、「育種の波動」としました。今後とも、当新聞をよろしくお願いたします。（事務局より）